

学校だより



令和4年4月28日
横浜市立二谷小学校
校長 矢島 孝幸

「あたりまえのことを あたりまえに！」

学校長 矢島 孝幸

新年度がスタートして、あっという間に一ヶ月が過ぎようとしています。子どもたちは、新しいスタートを切り、元気に過ごしています。朝のあいさつの声に勢いと張りを感じます。環境が気持ちを変えるのは、大人も子どもも同じですね。この姿が一年間継続することを願うばかりです。

始業式が始まる前日、夕刻のことです。校長室から何気なく運動場を見ていると、鉄棒をしている子どもと保護者の姿がありました（きっとキッズクラブのお迎えの帰りだと思います）。その子は、保護者の方のできるようになった鉄棒の技を得意気に見せていました。できた技を披露すると、笑顔で何かを伝えていました。そして、二人でハイタッチをして喜び合っていました。その嬉しそうな姿を見て私の心も温かくなりました。明日から始まる学校に向けて意欲と元気をもらった気がしました。同時にこのような素敵な姿がたくさん表れる二谷小にしたいと改めて思いを強めました。



4月から入学した一年生もすっかりと学校生活に慣れてきました。6年生にお手伝いしてもらいながらの給食当番も上手になってきました。休み時間は、仲間と楽しく過ごしています。発育測定では、ルールを守って、身長と体重の測定を行いました。教室での授業では、しっかりと座って先生の話聞いています。体育では、大きな運動場を走り回ったり、固定施設や鉄棒を使ったりしながら、思い切り体を動かして活動しています。まだまだ入学したばかりとと思っていましたが、少しずつ「小学生」の姿が身に付いてきています。これから日一日と成長していく一年生の姿が楽しみです。小学校で多くのことを学びながら、学校生活を存分に楽しんでほしいと思います。

4月の朝会で『あたりまえのことをあたりまえにしよう』と話をしました。これは、昨年度も年間通して子どもたちに発信し続けました。小学校は、これから社会に出て生きていくために人としての基礎を養う場です。私は、世の中で生きていくために、あたりまえのことをあたりまえにできる子どもになってほしいと思っています。「あいさつをする」「話を聞く」「お礼を言う」「謝ることができる」「約束を守る」等、様々な『あたりまえ』があると思います。それらのことを言われなくても自分でできる子どもたちになってほしいと願っています。この力が身に付くことで、さらに高い目標に向かって前進できる子どもに育っていくと思います。そんな子どもたちの集団を形成することができれば、大きく前進し、発展する学校になると考えています。もちろん、一朝一夕で実現できるとは思っていません。なので、毎年同じことを発信し続け、時間をかけて、目指す子どもの姿の具現につなげていきたいと思っています。そのためには、まず大人である私たちが手本を示すことが大切です。私自身も子どもたちに「あたりまえのことができる大人の姿」を見せられるよう努力していきたいと思っています。学校の教育活動も本格的に進んでいきます。これからもご理解とご協力をお願いいたします。